

## 第7回 核ダイナミクス研究会報告 2007. 9. 25. ・ 9. 27 北海道大学にて

北海道大学 小布施研 ポスドク 岩崎

こんにちは、北海道大学小布施研の岩崎です。この度は第7回核ダイナミクス研究会のから帰ってきたばかりで興奮冷めやらぬまま、研究会の報告をいたします。

秋の気配漂う札幌に、総勢62人の細胞核に情熱をもった方々に集まっていただき、活発な議論が取り交わされました。北海道という遠方の地での開催にもかかわらず、日本全国本当にいろんなところから、加えて海外からも参加されていました。

1日目は、染色体の機能を中心としたセッションで、セントロメア、ヘテロクロマチン、テロメアなどをキーワードに、染色体の機能領域がいかにして形成され、制御されるかが議論されました。1日目の終わりには、ウエルカムパーティーが行われ、サッポロクラシックを片手に、議論、交流を深めつつ夜は更けていきました。

2日目前半は、クロマチンのセッションで、美しいヒストンの生化学からホットなクロマチン高次構造研究まで、クロマチン全体をどう捉えるか、複雑で魅力的な問題に議論が高まりました。

後半は、核輸送のセッション。多数の構成成分からなりエレガントな構造を持つ核膜孔複合体が、生物種間や細胞の状態でどのように異なるのか、まさにポストゲノム時代にふさわしい発表が続きました。懇親会は大倉山山頂のレストランにて、ラムカッパステーキに舌鼓をうちました。

3日目、最終日は、核輸送のセッションが続き、日本最大の核輸送研究会の異名にふさわしい盛況で幕を閉じました。私は、この研究会に参加できたことで、核輸送が核のアイデンティティーを決定している精緻で重要なメカニズムだと得心しました。核膜研究や核膜孔複合体研究と染色体研究が、この研究会を通じて融合、発展していく未来を想像して楽しく思っています。

この研究会全体を通して、若い学生さんが自信を持って情熱的に発表している姿が印象に残りました。様々な人々の情熱が、核ダイナミクス研究をますます発展させていくことを祈念して、研究会報告を終わりたいと思います。皆様、本当にありがとうございました。